

## 拠点校の事業実施報告書

拠点校名：恵那市立三郷小学校

## 1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

月	取組の内容
4	全校研究授業（第3学年）+全校研究会
5	全校研究授業（第4学年）+全校研究会、全校研究授業（第1学年）+全校研究会
6	全校研究授業（第2学年）+全校研究会、全校研究授業（第6学年）+全校研究会 保護者等への授業公開
7	全校研究授業（第5学年）+全校研究会
8～9	指導案集の整理、研究紀要の作成、英語教室の整備と教材・教具の整理 児童と保護者へのアンケート調査の実施
10	市指定研究発表会の準備及びリハーサル
11	職員同士の授業力向上のための自主研修（チャンツの交流を通じた学び合い） 先進校視察、市指定研究発表会
12	指導案集の整理、研究紀要の作成、保護者等への授業公開、先進校視察
1	ALT等を講師とした教員の英語力向上のための研修、 職員同士の授業力向上のための自主研修（チャンツの交流を通じた学び合い） 研究実践にかかる成果と課題のまとめ
2	先進校視察 職員同士の授業力向上のための自主研修（チャンツの交流を通じた学び合い） 東濃地区実践交流会、県連絡協議会への参加、 児童と保護者へのアンケート調査の実施
3	次年度の研究計画の作成

## 2 本校における取組の具体的な内容

## (1) 教員の指導力の向上のための取組について

## 全学級担任の全校研究授業実施

毎回、研究推進委員会からの要請事項を取り入れた提案のある授業を公開し、全校研究会を通して成果と課題を明らかにした。

## ア 全校研究授業の概要（第1～4学年は参考）

期日	学年	単元名	ねらい	工夫点
4/23	3	イースターを楽しもう	イースターエッグ作りを楽しみながら、色や形を表す英語に親しむ。	美しく作りたくなる見本を提示することで、憧れをもたせ、いろいろな形の色紙を集める意味をもたせた。
5/2	4	家族を紹介しよう	ALTに家族を紹介するため、家族の呼び方の英語を使おうとしながらゲームを楽しむ。	ALTに自分の家族を紹介することを単元の出口に設定したことで、相手意識や目的意識をもたせた。
5/22	1	かずとなかよし	くじ屋さんごっこを楽しみながら、数や数を尋ねる英語に親しむ。	プラチェーンで作ったネックレスをお母さんにあげるという目的意識、相手意識をもたせた。
6/13	2	色・形となかよし	ほしい色や形の名前の英語を使おうとしなが、お店屋さんごっこを楽しむ。	集めたいろいろな形の色紙を使い、すごろくを作るために、目的意識をもたせた。
6/26	6	世界の米料理	作った米料理を試食し合	単元の出口で試食し合い、ALTや

		理	うことを通して、料理の感想を聞いたり、相手に伝えたりする英語に親しむ。	友だちに感想を伝え合う場面を設定したため食べた感想を聞き合う意味のある活動を設定した。
7 / 6	5	わたしたちのお茶と世界の人々	お茶を勧め合ったり、そのお茶がどこで飲まれているかを伝える英語を使おうとしながら、世界の紅茶めぐりを楽しむ。	自分たちしか知らない紅茶の飲み方を、他のグループの児童に伝えたり、実際に入れたお茶を勧めたりするために、どの児童にも目的意識をもたせた。

#### イ 全校研究授業の成果

- ・児童に相手意識や目的意識をもたせ、英語活動を行わせる手立てが明らかになり、児童にとって意味ある英語活動ができるようになった。
- ・"～ OK?" "Once more, please."のような聞き返し表現の有効性が明らかになり、どの学年でも聞き返し表現のある授業が展開されるようになった。
- ・目標を把握する時間 (Kids Time) が設定されたため、実際の活動 (Play Time) で豊かなコミュニケーションができるようになった。

#### ウ 全校研究授業の課題

- ・ゲーム (欲しい色や形のカードの枚数を集めること) に夢中になり、コミュニケーション活動がおろそかになってしまうことがある。教師自身が、活動のねらいを明確にし、その活動を、なぜ、何のために行うのか十分把握し、指導・援助を行うことが必要である。
- ・活動のねらいに基づき、"Kids Time"において本時に扱う言語材料を使い、どのような活動を行うのか児童が十分に理解できるように具体的なイメージ化を図ることが必要である。
- ・児童の実態や願いを十分把握し、本単元でどのようなことを理解させるのかを吟味して単元を構成するとともに、児童にとって過度の負担とならないように他教科との関連を図り、計画的に指導を行う必要がある。

#### ALT 等を講師とした教員の英語力向上のための研修



1月 英語研修

1月22日(火)ALTの民間派遣業者のスーパーアドバイザーのALTを講師に招き、職員研修を開催した。「Let's find out about Paul!」「How well do you know your ALT?」「I can speak English too!」「English for the classroom.」等のプログラムを通し、担任が使いたい英語表現や英語を使ったゲーム等について研修した。また、担任は英語が堪能でなくても外国の方とコミュニケーションを図ることが可能であることを体感できたことも大きな成果であった。

#### 研究推進委員会を中心とした職員研修

11月、1月、2月の3回にわたり研究推進委員会が主催で校内英語研修を行った。

#### ア 11月研修会

担任が他の教師を生徒に見立て、模擬授業の形で、実際の授業で扱うチャンツの練習を実施し、授業で行うチャンツのリズムの問題点や順序などを互いに検討した。

#### イ 1月研修会

体全体を使っての英語での誉め方や挨拶等を中心に、実際の授業に近い形の研修を実施した。英語に抵抗のある教師や恥ずかしくて大声で発話できない教師もいたが、研修を終える頃には、大きな声で身振りを交じえて"Good job!" "Excellent."等と発話できるようになった。



1月 職員研修

#### ウ 2月研修会

11月と同様に、模擬授業の形で実施した。どの教員も11月研修会に比べ、発話も身振りも大きくできるようになっていた。2月研修会では授業内のチャンツのリズムの問題点や英語表現の順序、更には実際に使う教材・教具の問題点や使用上の留意点等も検討することができた。

#### 先進校等視察の実施

今年度は先進的な英語活動の実践を行っている学校や地域への視察を数回実施した。下表のように自校では気付かない児童への配慮すべき事や授業過程の在り方、教材の工夫等、自校の

実践の参考にすべき事例を多く研修することができた。

期日	視 察 先	研 修 内 容
8 / 23	市パワーアップセミナー	小学校における英語活動の在り方 Classroom English
11/30	瑞穂市立生津小学校	全教育活動でコミュニケーション能力を育成する学習活動
12/14	京都市英語活動研究会	京都市全体での先進的な英語活動の取組
2 / 7	大垣市立中川小学校	全校体制で取り組む英語活動の在り方

## (2)効果的な指導方法の工夫改善について

担任の誰もが実践できる授業づくりのための教授法、教材・教具の共有化の工夫

ア 単位時間の学習（指導）過程の明確化と共有

実践を通して、下表のような基本的な単位時間の指導過程と各過程の意味を明らかにし、全職員で共通理解した。

学習過程	意 味 ( 場 )
Hello Time	・ 英語で挨拶する場 ・ 英語活動を行うという意識を付ける場
Song Time	・ 本時に関連した英語の歌を歌い、活動に対する意欲付けや本時に使う英語に慣れる場
Kids Time	・ 活動の目標を意識し課題意識をもたせる場 ・ 出口の活動を明らかにし目的意識や相手意識をもたせる場 ・ Play Time の活動を具体的にイメージさせる場
Play Time	・ 実際に児童が英語活動を行い英語に慣れ親しみ、進んで伝えようとする場 ・ (英語で)言ったことが伝わった喜び「言葉って伝わるんだ」という喜びを味わう場
Kira-Kira Time	・ 活動を振り返り、本時の活動の仲間の態度や、活動の目当ての評価を行う場 ・ 温かい人間関係を醸成する場
Good-bye Time	・ 英語で終わりの挨拶を行い、本時の活動の余韻を残す場
(Culture Time)	・ 外国や日本の多様な文化について理解を深める場 (必要に応じて設定)

### イ 歌やチャンツのビデオ教材化

学級担任は、単元ごとに活動に合うような歌やチャンツ、振り付けを工夫することが大きな負担となっていた。そこで、歌やチャンツを DVD 化し、本校の英語活動から生み出された財産の共有化を図った。DVD を教材研究として使ったり DVD を参考に新しいチャンツを作る担任も現れた。



チャンツのDVDの一コマ



### ウ 教材・教具の整備と使用マニュアルの作成

過去の英語活動で使用した教材・教具を英語教室のロッカーに保管してきた。しかし、膨大な量であり、またどのように活用したらよいかも分からないものがあった。そこで左の写真のように中身を整理し透明な保管ボックスに移し替えるとともに、教材・教具を単元指導計画に位置付け、そのまま授業に利用したり授業の参考にしたりできるようにした。

伝え合う意味のある場面設定の工夫

ア 第5学年の「ALT とティーパーティー」では、単元の出口の活動を「ALT とティーパーティーをしよう」とし、いろいろな紅茶の飲み方を調べてそれを相手に伝えたり、「Would you like some tea?」と気軽に人にお茶を勧めたりする活動を単元を通して行った。単元の終末でALT とティーパーティーができるように、紅茶の飲み方を他のグループの児童と伝え合ったり、実際に入れたお茶を勧めたりする活動に目的意識をもって取り組むことができた。

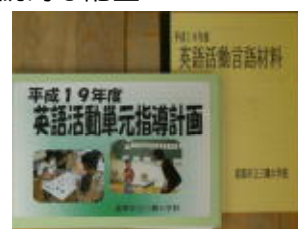
イ 第4学年(参考)では、「家族を紹介しよう」の単元で、相手(ALT)の知らない情報として自分の家族を紹介する場面を設定して活動を行った。このように相手の知らない情報を伝える活動を設定した場合、児童はゲームだけを行って感じる楽しさとは異なった、意思伝達できた成就感を味わうことができた。

ウ 第3学年(参考)では、外国の文化に親しむ「イースターを楽しもう」の単元で、終末の活動を「イースターエッグを作ろう」として、いろいろな形の色紙を集めて回る場面を設定した。美しい写真を提示することにより、児童は「美しいイースターエッグにしたい」とい

う憧れをもちながら活動に入ることができた。"What shape?" "What color?"という問いに対して、英語を使って、自分が必要とする色紙を集めてイースターエッグを完成させようとする活動が開かれた。コミュニケーションを図る活動に明確な目的をもたせることで、児童は集中し、意欲をもって意味のある英語活動を行うことができた。

児童が無理なく英語で表現する力を伸ばすための言語材料の精選と系統的な配置

これまでの本校の指導計画は、各単元で用いる言語材料が既習のものか未習のものか不明で、系統的な指導に弱さがあった。そこで児童が無理なく英語で表現する力を伸ばすために、右のような言語材料一覧を作成した。新出のものとは既習のものが分かるよう新出のものには を付けた。また、既習のものはどの学年で学習したか分かるよう言語材料の前に初出学年の記号を入れるよう工夫した。



英語活動言語材料一覧

単元指導計画集の作成

以前からその年度の実践に基づき、単元指導計画を更新してきた。

しかし、その作成は担任のみに委ねられてきたため、各学年の記述の仕方に統一性が無く、翌年の担当学年の担任が授業を考え直さなければならないこともあった。そこで記述については低中高学年担任がペアを組み二人で作成するようにし、誰にでも使いやすい単元指導計画に改善した。単元指導計画には、活動名、ねらい、主な活動計画、主な言語材料、教材・教具を記述し、その単元の活動の概要が一目で分かるようにした。

### (3) ALT や地域人材等の効果的な活用について

ALT の活用状況 (第1～4学年は参考)

本校における今年度の ALT の活用状況は下表のようである。

学 年	年間授業時数	T T 時数 (内数)	学 年	年間授業時数	T T 時数 (内数)
第1学年	30時間	8時間	第4学年	35時間	10時間
第2学年	30時間	8時間	第5学年	35時間	10時間
第3学年	35時間	11時間	第6学年	35時間	12時間

T T における場面ごとの各指導者の役割の明確化

本校の英語活動は学級担任が主たる指導者となることを基本とし、全授業時数の約 1 / 3 において ALT との T T を実施している。

T T における ALT の役割として、第一は音声面の指導である。児童が、ネイティブスピーカーの発音に触れる機会をできるだけ多くするようにしている。

第二は、児童が情報を伝える相手としての役割である。普段生活を共にしていない ALT をコミュニケーションの相手とすることで、本校が大切にしている「相手の知らない情報を伝える場面設定」が可能になり、児童のコミュニケーションに相手意識をもたせることができた。

下表は、単位時間の各学習過程における学級担任と ALT の役割をまとめたものである。

学習過程	学級担任の役割	ALT の役割
Hello Time		・アイコンタクトを取りながら挨拶する
Song Time	・一緒に明るく歌う	・チャンツ等でネイティブの発音を聞かせる
Kids Time	・デモンストレーションを行う	・担任とデモンストレーションを行い、本時の活動内容を示す
Play Time	・児童への指導・援助を行う	・店やお客、インタビュアー等となり、ネイティブの発音を聞かせる
Kira-Kira Time	・態度面を評価する	・コミュニケーションの様子を評価する
Good-bye Time		・一緒に明るく歌う

事前打合わせの確実な実施

役割を明確にし授業を進めるためには ALT との事前の打ち合わせが重要である。本校では、事前に ALT にファックスを送付するとともに、本校勤務日の第1校時を打合せ時間として固定し、担任と ALT が打合せをしたりして意思疎通を行うことにしている。

#### (4) 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

児童の興味・関心や保護者の意識の変容を把握するアンケート調査の実施

本校では毎年、英語活動について全校児童に評価させ、授業改善を図っている。今年度の児童アンケートの結果は、「3 本校における取組の成果等」で示す。

単元及び単位時間の評価規準の明確化と、それに基づいた評価の蓄積

本校の英語活動では、指導目標（ねらい）を下記のように2～3設定している。

	= 本時（本単元）の英語活動の中心的活動（Play Time）で達成させる活動目標
	= 本時（本単元）の活動を成立させるために児童に意識させる態度目標
	= 本時（本単元）で児童に学ばせたい世界の文化に関する目標（題材に応じて設定することがある）
具体例	カレーやサラダの材料となる野菜を八百屋さんで買ったり売ったりする英語を使うとうしなが、買い物ごっこを楽しむ。 相手の目を見て話したり、困ったときには"Help me, please."を使って助けを求めたりすることができる。 世界には、トイレットペーパーの代わりにいろいろな物が使われていることを知り、世界の文化への関心を高める。

昨年度までの授業は、「親しむ」ことが主眼であり、研究授業の評価も「元気がよかった」「楽しそうだった」というような曖昧なものであった。今年度は、本時の中心的な活動（Play Time）の指導目標を具体化することで評価規準が明確になった。これにより、単元を通じた累積的な評価も可能となった。

児童の学習意欲を高める評価方法の工夫

単位時間の授業における中心的な活動（Play Time）を前半と後半に分け、その間に Half Time を設定した。前半において評価規準に基づいて児童を観察し、不十分と思われる点について Half Time に指導したり、望ましい活動をしている児童を認め、よい姿を全体に広めたりすることで、後半の活動への意欲の向上を図ることができた。

#### (5) その他

英語に慣れ親しむための学校環境の工夫

楽しく英語活動を行うことができるためには、学校環境も重要だと考えた。そのため、全校統一の掲示物を作ったり、毎日の諸活動の始まりの音楽を英語の曲にししたりした。児童は、ごく自然に一日の始め・給食・掃除・下校の放送の始まりに英語の曲を耳にしている。自然に英語の曲に親しみ、そのまま口ずさむ児童や、"How are you?"と尋ねると、"I'm happy."と応える児童も多い。英語を学ぶ環境作りも重要であることが確かめられた。



全校統一の掲示物

保護者に広める英語活動

ア 積極的な授業公開

本校では、授業参観や学校評議員会の折にも積極的に英語活動を公開するようにしている。

6月、12月の授業参観で英語活動の公開を通し、本校の特色ある活動としての英語活動を理解してもらえるようにした。これからの時代を生きていく児童に英語活動を実施することについて9割以上の保護者が「満足」と回答している。

イ 保護者も巻き込んだ英語教室の実施

夜間、本校職員や地域人材を講師として保護者及び児童対象に英語教室を行っている。本年度は12月に「クリスマスの英語」を実施し、40名以上の保護者に参加いただいた。当日はクリスマスの英語をゲームなどを通して楽しく学び合うことができた。

### 3 本校における取組の成果等

#### (1) 成果

単位時間の基本的な学習（指導）過程を明らかにすることができた。

必然や目的意識の明確なコミュニケーションを図る活動を工夫することで、児童の活動への意

欲を高めることができた。

教材・教具の共有化や、指導過程の共通理解、また、指導力や英語力を高める職員研修を進めることで、学級担任の誰もが、主たる指導者として自信をもって授業に臨むことができるようになった。

#### 児童の意識の変容

実践を進めてきた結果、本校の児童が英語活動に対して好意的に捉えていることが、以下のアンケート結果のように明らかになった。

Q1 英語の活動の時間は楽しいですか。(第1～4学年は参考)

学年 在籍数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	
	20人	20人	22人	21人	27人	18人	128人	
楽しい	20人	18人	22人	16人	22人	12人	110人	86%
楽しくない	0人	0人	0人	2人	0人	0人	2人	2%
どちらとも	0人	2人	0人	3人	5人	6人	16人	12%

楽しいと答えた主な理由(第5学年、第6学年のみ抜粋)

- ・英語は、日本と違う外国に飛び出すという感じで、いろいろなたくさんの違いが見付けられて楽しいし、勉強は言葉がいろいろ分かって楽しい。
- ・日本じゃない国の言葉がしゃべれるからおもしろい。
- ・いろいろな英語を使って ALT の先生といっぱい話したりして、言葉が通じて楽しかったし、修学旅行で外国の人に初めて会ったときでも、しっかり言えば通じるんだなあと思ってすごく楽しかった。

Q2 英語を勉強するようになって変わったことは何ですか?(複数回答可)

(a)英語が好きになった。  
 (b)英語を使うようになった。  
 (c)英語のテレビを見たり英語の音楽を聞いたりするようになった。  
 (d)英語の書いてある本を読んだり見たりするようになった。  
 (e)外国の人と話すのが楽しくなり、もっと話してみたいと思うようになった。

(単位 人)(第1～4学年は参考)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	
a	19	14	19	5	17	5	79	62%
b	10	9	8	18	19	10	74	58%
c	13	9	9	5	11	5	52	41%
d	10	6	2	4	6	2	30	23%
e	19	10	13	6	12	3	63	49%

Q3 そのほか、英語を勉強してみて良かったなと思うことや、自分が変わったなと思うことはありませんか?(第5学年、第6学年の主なもののみ抜粋)

- ・英語を勉強していない時も、やっぱりいろいろなところで変わったと思うけど、興味をもって積極的になった。
- ・普段の会話でも自然に英語が出てきて、家でも英語の歌が出てくる。

Q4 これからの英語の時間にやりたいことは何ですか?

- ・外国のことがもっと知りたい。
- ・もっと外国の人といっぱい話したい。

## (2)課題

### 単元指導計画の工夫改善

・「英語ノート(仮称)」の単元指導計画への位置付けと異文化理解の取り上げ方  
 学年の発達段階を踏まえた系統的な指導の在り方  
 規律と学習ルールのある楽しい英語活動の在り方

Classroom English 集の作成と職員研修の充実

指導目標の吟味と「聞くこと・話すこと」も含めた評価の在り方 等